

2017 年度

# 事業報告書

(2017.4 - 2018.3)

公益財団法人 都市活力研究所

# 目次

## 事業の状況

【公益事業1】産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業..... 1

1. バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズを育成する事業〈相談・助言〉
  - 創業シーズ相談会
  - 経営支援相談会
  - バイオ技術シーズ公開会
2. 創業分野におけるスーパーコンピュータ利用を促進する事業〈講座、セミナー、育成〉〈調査、資料収集〉
  - インシリコ創業支援事業〈講座、セミナー、育成〉〈調査、資料収集〉
  - FMO 創業コンソーシアム〈調査、資料収集〉
  - AI コンソーシアム〈調査、資料収集〉
3. 技術革新や新たな価値創造を支える人材の育成、及び環境整備の方策について調査を行う事業
  - (1) 人材育成事業〈講座、セミナー、育成〉〈表彰、コンクール〉
    - GVH Osaka Startups Demo Day〈講座、セミナー、育成〉
    - GVH Meetup〈講座、セミナー、育成〉
    - GVH Startup Camp2017〈講座、セミナー、育成〉
    - 国際会議(Hack Osaka2018)〈講座、セミナー、育成〉〈表彰、コンクール〉
    - Tomodachi Women's Leadership 2017〈講座、セミナー、育成〉
    - SEITAIKAI(生態会)発足記念講演会〈講座、セミナー、育成〉
    - UCL\_Japan Youth Challenge2017 シンポジウム〈講座、セミナー、育成〉
    - バイオ講座 第6回ライフサイエンスMOT講座「ライフサイエンス・アントレプレナー入門塾」〈講座、セミナー、育成〉
    - 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー〈講座、セミナー、育成〉
    - スマートウェルネス・オープンセミナー〈講座、セミナー、育成〉
    - スーパーコンピューティングコンテスト〈表彰、コンクール〉
    - バイオメディカル研究会〈講座、セミナー、育成〉
    - 大阪大学 健康・医療クロスイノベーションフォーラム〈講座、セミナー、育成〉
  - (2) 調査研究事業〈調査、資料収集〉
    - グローバルヘルスイニシャティブ(GHI)構想実現に関する調査
    - 大阪における起業環境・産業立地に関する基礎的研究
    - 医療機器分野についての調査・研究

【公益事業2】 まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業 .....17

1. これからのまちづくりのあり方についての調査研究 <調査、資料収集>

UIIまちづくり研究会

郊外まちづくりについての調査・研究

関西ツーリズムサポーターズ(Kansai Tourism Supporters KTS)

2. まちづくりに関する情報発信(講座、セミナー、育成)

UII まちづくりフォーラム

研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」等

まちづくりレターの配信

インバウンド観光セミナー「観光のひろば」

観光イノベーションアカデミー

【その他事業】 産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事业.....22

1. NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

事務局運営

バイオグリッド HPCI プロジェクト(KBDD プロジェクト)

2. 創薬関連プロジェクトの運営支援

(一社)日本マイクロバイオームコンソーシアム(JMBC)の運営支援

3. エリアマネジメント活動の支援

梅田地区における案内所業務への支援

梅田地区エリアマネジメント実践連絡会の活動支援

大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援

4. (公社)都市住宅学会関西支部の運営支援

5. 起業家支援オフィスの運営「Global Venture Habitat 大阪」(GVH 大阪)

【法人管理】 公益法人としての適正な運営.....25

(附属明細書)



# 事業の状況

【公益事業1】 産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

## 1. バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズを育成する事業 <相談・助言>

- 創薬シーズ相談会（シーズ：大学等の有望な技術や研究テーマ）<相談・助言>

創薬シーズを保有しビジネス化への意欲を持つ研究者からの相談に対し、産業界のニーズに精通した製薬企業の研究企画部門担当者が相談委員となり、助言を行う。大阪医薬品協会の協力により 2010 年度に開始し、今年度は 5 回開催した。相談委員は今年度末時点で 25 社。

なお、創薬シーズを広く全国から収集するため、医療系産学連携ネットワーク協議会 (medU-net) と 2015 年度より連携している。また、今年度も、地方の大学でも認知されるように、案内チラシを BlioJapan2017 (2017/10/11-13) で配布した。

日程	シーズタイトル	シーズ相談者	共催
4/3	タンパク質アルギニンメチル基転移酵素を阻害する抗がん剤	宮崎大学医学部 機能制御学講座腫瘍生化学分野 教授 森下和広	medU-net
4/13	傷害誘導性多能性幹細胞 (iSC) 由来、抗炎症性ミクログリアを標的とする脳内炎症治療法	兵庫医科大学 先端医学研究所 教授 松山知弘	medU-net
9/7	霊長類から臨床研究までをシームレスに実施できる産学連携システム	滋賀医科大学 バイオメディカル・イノベーションセンター 特任教授 松浦昌宏	medU-net
1/18	絞扼性腸閉塞の術前診断補助方法	日本医科大学 消化器外科 准教授 山田岳史	medU-net
3/1	加齢性シエーグレン症候群の診断法と治療法の開発	兵庫医科大学 医学部 助教 西浦弘志	medU-net

- 経営支援相談会 <相談・助言>

バイオ関連分野で起業を志す人を対象に、経営課題の解決のための相談会を 2015 年度より開始したが、今年度は相談がなかった。そのため、公益事業として一定の役割を果たしたと判断し、今年度で終了することとした。

- バイオ技術シーズ公開会 〈相談・助言〉

アカデミアの有する優れたバイオ技術シーズを広く産業界に公開することで、新たな産業化のための機会を創出することを目的とする。NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議との共同主催により、昨年度より開始し、今年度は 7 月 27 日に開催した。公開されたのは以下の 9 シーズで、製薬企業等から 53 名が参加して情報を収集した。

No.	公開シーズタイトル	機関名・所属
1	岡山大学と進める国連の持続可能な開発目標取り組みの可能性	岡山大学
2	ACAT を標的としたアルツハイマー病治療薬の開発	同志社大学生命医科学部
3	副作用のない抗アルツハイマー病戦略	同志社大学大学院生命医科学研究科
4	脂質代謝酵素に着目した表皮肥厚性疾患の予防と治療	徳島大学大学院社会産業理工学研究部
5	NF- $\kappa$ B 転写阻害因子 MTI-II の抗炎症作用中心を構成する 6 アミノ酸ペプチドのファルマコフォアに基づく新規抗炎症薬ケミカルの開発	大阪大学産業科学研究所 生体分子反応科学研究分野
6	ポスト抗体医薬: 進化分子工学による分子標的ペプチドの開発	大阪府立大学大学院理学系研究科
7	ナメクジ、ジャンボタニシ、ボウフラに食毒性を示すタンパク質	近畿大学生物理工学部 食品安全工学科
8	黄色ブドウ球菌の選択的生育抑制により皮膚疾患を予防する脂肪酸素材	(地独)大阪産業技術研究所 森之宮センター
9	胆汁酸の腸肝循環阻害メカニズムによる、コレステロール低下／抗肥満活性のある食品の開発	京都学園大学バイオ環境学部

## 2. 創薬分野におけるスーパーコンピュータ利用を促進する事業〈講座、セミナー、育成〉〈調査、資料収集〉

- インシリコ創薬支援事業 (インシリコ創薬: コンピュータを活用した創薬)

〈講座、セミナー、育成〉〈調査、資料収集〉

インシリコ創薬に関する様々な情報を提供し、その利用を促進することを目的に、各種講演会を 2010 年度より開催している。

日程	タイトル	主催者等	参加者
5/12	CBI 学会 第 383 回研究講演会 「健康と疾病予防に向けたビッグデータ解析」	主催: 情報計算化学生物学会(CBI 学会) 共催: 当法人	87 名
5/27	バイオグリッド研究会 2017 「AI・シミュレーション・システムバイオロジーと創薬」	主催: NPO 法人バイオグリッドセンター関西 共催: 当法人	38 名
9/1	CBI 学会 第 387 回研究講演会 「薬物-標的親和性計算の新潮流 ～古典 MD から量子 MD へ～」	主催: 情報計算化学生物学会(CBI 学会) 共催: 当法人	58 名

10/4 - 1/24	遠隔インタラクティブ講義「計算生命科学の基礎Ⅳ (詳細参照)	主催:神戸大学、理化学研究所、 (国研)産業技術総合研究所、等 後援:当法人	登録者数 578名
12/22	CBI学会 第390回研究講演会 「臨床分野におけるAI活用の可能性と実際」	主催:情報計算化学生物学会(CBI学会) 共催:当法人	133名

(詳細)遠隔インタラクティブ講義「計算生命科学の基礎Ⅳ」

- 第1回 10/4 計算生命科学の概要
- 第2回 10/11 遺伝統計学の基礎と応用
- 第3回 10/18 ゲノミクスからの構造インフォマティクス
- 第4回 10/25 電子顕微鏡解析
- 第5回 11/1 機械学習・人工知能技術入門
- 第6回 11/8 計算生命科学のための量子化学基礎
- 第7回 11/15 フラグメント分子軌道法に基づく創薬分子設計の現実と課題
- 第8回 11/22 QM/MM法を用いたタンパク質の機能解析
- 第9回 11/29 生命系の分子動力学シミュレーション
- 第10回 12/6 分子モデリング及びシミュレーションを活用したインシリコ創薬支援
- 第11回 12/13 確率モデリング技術の基礎と応用～ビッグデータ活用のための人工知能技術～
- 第12回 12/20 ヒトを対象とした医学研究のデザインと解析手法
- 第13回 1/10 計算システム生物学と創薬
- 第14回 1/17 インフォマティクスとシミュレーションを融合したインシリコスクリーニングと最適化設計
- 第15回 1/24 Real World Data:統計か疫学かコンピュータサイエンスか

- FMO創薬コンソーシアム (FMO:フラグメント分子軌道法) <調査、資料収集>

創薬分野における計算機利用のうち、FMO法による蛋白質と化合物の結合状態を解析するアプリケーションの創薬現場での利用可能性を、星薬科大学、神戸大学、理化学研究所、製薬企業等が参加し検証するコンソーシアムの運営支援を、2015年度より行っている。

今年度は、昨年度同様、後述する【その他事業】バイオグリッド HPCI プロジェクト(KBDD プロジェクト)と相互に計算結果の開示するとともに、AIコンソーシアムとの連携も開始した。

- AIコンソーシアム (LINC:Life Intelligence Consortium) <調査、資料収集>

創薬分野におけるAI(人工知能)の活用を促進するため、京都大学、理化学研究所、(国研)医薬基盤・健康・栄養研究所及び当法人が事務局を務め、3月末現在で製薬企業やIT企業等、参加機関39、登録者数560人が参加しているコンソーシアムである。

今年度は、産業界が希望した30のテーマごとに、製薬企業とIT企業両者が参加したプロジェクトチームを結成し、非競争領域におけるAIのプロトタイプシステムの構築を目指して、学習データの有無や適用可能なアルゴリズム等を調査した。可能なテーマでは、AIプロトタイプの開発にも取り組んだ結果、以下の3つのテーマで、プロトタイプが完成した。今後、コンソーシアムにおいて、その評価検証を行う予定である。

- ・文献からの有望研究者の探索
- ・病理画像における壊死部分の予測
- ・蛋白質と化合物の結合ポーズ予測

### 3. 技術革新や新たな価値創造を支える人材の育成、及び環境整備の方策について調査を行う事業

#### (1) 人材育成事業 <講座、セミナー、育成><表彰、コンクール>

- GVH Osaka Startups Demo Day <講座、セミナー、育成>

大阪発スタートアップと、投資家やメディア関係者とのマッチングの場であり、起業家支援活動をより推進して、大阪における新事業を創造することを目的としている。2015年度より(株)サンブリッジグローバルベンチャーズの共催で開催。今年度は4月27日に開催した。

※GVH Osaka: スタートアップのエコシステムを大阪に創ることを目的に開設した起業家支援オフィス。

「Global Venture Habitat 大阪」の通称名。2011年1月開設。利用会員は、規模拡大等に伴う退去者等を含めると延べで150名を超え、3月末時点では26法人29名。

日程	タイトル	内容	主催等	参加者
4/27	For U-29	学生や若手起業家の事業内容発表に加えてメンタリングセッションを実施	主催: 当法人 共催: (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 協賛: 阪急電鉄(株)	27名

- GVH Meetup <講座、セミナー、育成>

国内外のイノベーション人材とGVH大阪のメンバーを引き合わせ、起業家マインドの醸成と情報連携を行う目的の、小単位の勉強会。2015年度に開始し、今年度は計12回開催した。

日程	タイトル	講師	主催等	参加者
4/11	初めての人のための知財講座	(一社)大阪発明協会 総合知財アドバイザー別府賢一	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	7名
8/22	Hangout with Members and Friends	—	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	7名
9/21	What IF?-米国での起業とは? ニューヨーク最新の起業とスタートアップ事情	米ライジングスタートアップス社 パートナー/創業者 奥西正人	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 共催: 米ライジングスタートアップス	12名
10/11	シリコンバレー流プレゼンテーションに学ぶ-効果的なプレゼンのコツ	SiliconValley-Japan Business Consulting CEO Mark Kato	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	17名
11/6	GVH member & GVH Startup Camp member 交流会	—	—	22名
11/9	Bridging Japan, Singapore & The Rest of Asia	WASABI Creation Founder & CEO Tong Cheuk Fun	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 共催: WASABI Creation	17名

11/20	Entrepreneurship in Kansai: Opportunities for the Youth to Step Up	Sunbridge Inc. Founder & CEO Allen Miner	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	14名
12/13	Service Design Drink	(株)インフォバーン サービスデザイナー Esben Grondal	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 共催: (株)インフォバーン	13名
1/15	Lunch Meeting	—	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	18名
1/19	Habitat Friday 第1回目	—	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	14名
2/16	Habitat Friday 第2回目	—	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	10名
3/23	Habitat Friday 第3回目	—	主催: 当法人、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズ	11名

- GVH Startup Camp2017 <講座、セミナー、育成>

若手による起業を促進するため、昨年度より開始した3か月集中型の起業家育成プログラム。

今年度も7月にオープニングイベントを行い、以降8月から10月まで8セッションを実施した。第2期生として20名が参加し、10月14日の最終報告会では約50名の一般参加者及び審査員の前で、4チームがビジネスモデルを発表した。結果、最優秀賞は、料理人のためのオーダー管理システム「エアール・クック」と、子供のための最速弁当提供サービス「食育戦隊！みーるマン」が受賞した。

日程	タイトル	講師
7/14	オープニングイベント 第一部 ワークショップ 第二部 基調講演	(株)スタートアウツ 代表取締役 板本 拓也 (株)ユニサーチ 代表取締役 村上 悠治 (株)Darma Tech Labs 共同創業者兼代表取締役 牧野 成将
8/20	アイデアビルディング	(株)Darma Tech Labs 共同創業者兼代表取締役 牧野 成将
8/26	プログラミング基礎	(株)クロノス ラーニンググループ 講師 村山 雅彦
9/9	ハードウェア基礎	キャストリア(株) 吉田 研一
9/17	チームビルディング&デザインシンキング	京都工芸繊維大学 特任准教授 Sushi Suzuki
9/22	ビジネスモデル	ラーニング・アントレプレナーズ・ラボ(株) 堤 孝志
9/30	プレゼンテーション	京都工芸繊維大学 特任准教授 Sushi Suzuki

10/7	プロトタイプキャンプ	(株)クラフル 代表取締役社長 大野 拓海 (株)空色 代表取締役 中嶋 洋巳
10/14	Demo Day	(株)ユニコンファーム 田所 雅之

● 国際会議(Hack Osaka2018) <講座、セミナー、育成><表彰、コンクール>

関西における起業家マインドを醸成し、地域起業支援コミュニティを活性化するため、海外のイノベーションへの取り組みの先進的事例を紹介するとともに、国内外の起業家を対象としたビジネスプランコンテストや交流促進のためのイベント等の企画運営を大阪市とともに行った。今年度は「つながる力・つなげる力でセレンディピティを生み出すーGive Before You Getー」をテーマに2月27日に開催した。参加者は684名、TV局はじめメディアに25件掲載された。

内容:

- (1) グローバルチャレンジャーズトーク 須田健太郎氏 (Freeplus 創業者)
- (2) 基調講演 Ms. Tiantian Zhang (Co-founder of Vigo Technologies)
- (3) パネルディスカッション
  - 1 Mr. Oko Davaasuren (Regional Director, Asia at Techstars)
  - 2 Mr. Oscar Kneppers (Founder of Rockstart)
  - 3 Mr. Gidi Schmerling (Director of Media Relations at the Tel Aviv-Yafo Municipality)
  - 4 Mr. Shan Lu (Founding Partner & COO at LeaguerX)
  - 5 吉川 正晃氏 (大阪市 経済戦略局 理事)
 モデレータ Mr. Tim Romero (Serial Entrepreneur, Host of the Disrupting Japan)
- (4) インターナショナルピッチコンテスト
- (5) スタートアップトーク 高萩昭範氏 (CEO of Moff)

● Tomodachi Women's Leadership 2017 <講座、セミナー、育成>

アメリカ大使館が推進している女性グローバルリーダー育成プログラム。大阪地区では、駐大阪・神戸アメリカ総領事館(関西アメリカンセンター)主催のもと2013年度より実施され、当法人は共同主催者として推進してきた。

今年度も国際ビジネス経験者であるメンター10名と、女性グローバルリーダーを目指す学生であるメンティ10名を参加者として、9月に開講し全5セッションを実施した。

日程	タイトル	講師
9/22	Building a Mentorship Relationship	Janelle Sasaki, Director, EY Advisory & Consulting
10/13	The Key to Effective Leadership	Mary Anne Jorgensen, Senior Facilitator, Lumina Learning
11/3	Financial Literacy: Becoming Independent	Tsutomu Isomoto, Department Manager, Field Learning Development HQ, MetLife Japan Takeshi Doira and Mayumi Yamazaki, Field Learning Development HQ, MetLife Japan

12/8	Crafting Collaborative Communication	Mary Anne Jorgensen, Senior Facilitator, Lumina Learning
1/26	Team Work & Trip Overview	Kevin McCarthy, TMWLP Program Manager

● SEITAIKAI(生態会)発足記念講演会 <講座、セミナー、育成>

大阪におけるイノベーション創出を加速するために、大阪において国際的に活躍する起業家たちの生態系をいかに構築し地域全体に拡充していくかを定期的に議論をする場を作ることを目的に、(株)サンブリッジグローバルベンチャーズが主催し発足会を開催した。当法人は共同主催として企画、運営や広報支援を行った。参加者 109 名。

日程	タイトル	講師
7/24	基調講演 トークセッション  パネルセッション①  パネルセッション②	(株)ピザスク 代表取締役社長 端波英子 スマートニュース(株) 執行役員 藤村厚夫 阪急電鉄(株) 都市マネジメント事業部副部長 高岸実良 (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 代表取締役 Allen Miner (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 取締役 宮野豊 慶応大学 特別招聘准教授 井上英之 Gochiso 共同創業者 Philip Nguyen Gochiso 共同創業者 Kina Jackson (株)サンブリッジグローバルベンチャーズ 代表取締役 Allen Miner シリアルアントレプレナー Tim Romero (株)Darma Tech Labs 共同創業者兼代表取締役 牧野 成将 (株)サンブリッジコーポレーション ストーリーテラー Tugi Gunes

● UCL\_Japan Youth Challenge2017 シンポジウム <講座、セミナー、育成>

UCL\_Japan Youth Challenge は、UCL(ロンドン大学)が主催する、日本とイギリスの高校生のためのイノベーションプログラムである。日本とイギリスの高校生各 50 名が、イギリスで 10 日間の行動を共にしテーマに沿って議論・発表を行い、シンポジウムはその一部としてプログラム後半に成果報告会を兼ねて UCL で開かれた。

テーマは、関西の商業工業発展の礎を築き、長くイギリスと交流のあった五代友厚の功績を事例にした「社会起業の起こし方」。当法人は共催者として、起業家の人材育成等の活動を紹介するスピーチを行った。参加者 200 名。

日程	タイトル	講師
7/27	【シンポジウム】 開講の挨拶 基調講演 セッション①「起業と社会」スピーチ	Prof. Shin-Ichi Ohnuma, UCL-Japan Youth Challenge Prof. Nick Tyler, UCL Transport Institute Mr. Tadahiko Yanai, Manager for Innovation, Economic Strategy Bureau, Osaka City Government Prof. Toshiya Hoshino, Osaka School of International Public Policy Osaka University Dr. Nina Seppala, Deputy Director, UCL School of Management

	<p>ワークショップ検討結果の発表 セッション② 「ケーススタディと起業家精神醸成」紹介</p> <p>【レセプション】</p>	<p>UCL Innovation and Enterprise Mr. Soto Yamauchi, Entrepreneur, Walt, Inc <u>Ms. Tomoko Watanabe, Project Manager, Urban Innovation Institute</u> Prof. Muki Haklay, 'Extreme Citizen Science' group, UCL Department of Geography</p>
--	--	---

● バイオ講座 第6回ライフサイエンスMOT講座「ライフサイエンス・アントレプレナー入門塾」

(MOT :技術経営 Management of Technology) <講座、セミナー、育成>

ライフサイエンス分野において事業開拓や起業に関心を持つ大学院生、大学・機関研究者、起業家を目指す若手研究者や企業の事業開発担当者を対象とした人材育成を目的とした実践講座。2012年度から開催し今年度で6年目となった。大学・研究機関・産業界の第一線で活躍する講師を招き、オムニバス形式の講義を通じて、ライフサイエンスビジネスの現状、課題並びに将来展望等、グローバルな観点も織り込んだ知識や考え方も交えながら、アントレプレナーシップやオープンイノベーションについて学ぶ機会を入門編として提供している。少人数制であり、受講者同士の交流を深める機会を毎回提供し、異分野・異業種間のコミュニティの醸成にもつながっている。参加者26名。

日程	タイトル	講師
5/2	①グループワーク「アイズブレイク」 ②講義「リーダーシップの本質と実践」	①神戸大学大学院工学研究科 特命助教 祇園景子 ②Foresight&Linx(株) 代表取締役社長 能見貴人
6/17	③講義「人と組織を動かすプレゼンテーションの極意」 ④講義「シリコンバレー流 課題発見型ヘルスケアソリューションのデザイン手法」	③(株)Smart Present 代表取締役 新名史典 ④大阪大学大学院医学系研究科 特任准教授 八木 雅和
7/15	⑤講義「アントレプレナーシップ入門 ～アントレプレナー、イノベーションとファイナンス～」 ⑥講義「バイオベンチャーの立ち上げ」	⑤神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 教授 山本 一彦 ⑥カルナバイオサイエンス(株) 代表取締役社長 吉野公一郎
8/19	⑦デザイン思考ワークショップ	⑦神戸大学大学院工学研究科 特命教授 祇園景子
9/16	⑧講義「ベンチャーキャピタルの資金調達」 ⑨講義「日本の再生のためにー知財の視点からー」	⑧(株)Darma Tech labs 共同創業者兼代表取締役 牧野成将 ⑨山本特許法律事務所 弁理士 山本 秀策

10/21	<p>⑩講義「少子高齢化社会における健康教育のニーズ～薬剤師がかかわるポリファーマシー対応と個別化医療～」</p> <p>⑪講義「地域包括ケアシステム推進の施策動向とICT・IoT サービス導入事例」</p>	<p>⑩神戸大学 名誉教授 平井みどり</p> <p>⑪日立製作所(株) ヘルスケアビジネスユニット 経営戦略室渉外部 部長代理 光城元博</p>
11/18	<p>⑫講義「バイオベンチャーの目論見書解説」</p> <p>⑬講義「事業化を目指す研究者のための特許と契約」</p>	<p>⑫(同)SARR 代表執行社員 松田一敬</p> <p>⑬九州大学 先端融合医療創成センター・ARO 橋渡研究推進部門 特任准教授 浅野滋啓</p>
12/16	<p>⑭講義「異分野連携とポジティブシンキング」 ＜まとめ・修了証授与式＞</p>	<p>⑭(株)創晶 代表取締役社長 安達宏昭</p>

- 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー〈講座、セミナー、育成〉

ライフサイエンス分野で最先端の研究を先導する関西の研究者を招き、最新情報の提供及び参加者同士の交流の場を提供することを目的とし、2014年度から年4回の頻度で開催している。主催は当法人とNPO法人近畿バイオインダストリー振興会議であり、共催としてNPO法人バイオグリッドセンター関西、後援として関西医薬品協会の協力を得ている。

日程	タイトル	講師	参加者
第12回 6/1	<p>「ゲノム編集技術の進歩と課題」</p> <p>「インフルエンザウイルスの増殖機構」</p>	<p>大阪大学微生物病研究所 教授 伊川正人</p> <p>京都大学ウイルス研究所 ウイルス微細構造研究領域 教授 野田岳志</p>	62名
第13回 9/15	<p>「人工知能で精神疾患・発達障害を再定義し治療する」</p> <p>「腎臓の『治る』と『治らない』の境界線はどのように決まるのか」</p>	<p>(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR) 脳情報通信総合研究所所長 川人光男</p> <p>京都大学大学院医学研究科腎臓内科学 教授 柳田素子</p>	71名
第14回 12/1	<p>「HIV インテグラーゼ阻害薬ドルテグラビルの創薬と開発の道程」</p> <p>「腸管 IgA 抗体による腸内細菌選別とその制御」</p>	<p>塩野義製薬株式会社 HIV Integrase Inhibitor グローバルプロジェクトリーダー 藤原民雄</p> <p>東京大学分子細胞生物学研究所 免疫・感染制御研究分野 教授 柳田素子</p>	42名

第15回 3/21	「眼とiPS細胞の未来」 「向社会性の脳内メカニズムとストレス」	大阪大学大学院医学系研究科 脳神経感覚器外科学(眼科学) 教授 西田幸二 情報通信研究機構(NICT)脳情報通信融合研究センター 脳情報工学研究室 研究マネージャー 春野雅彦	38名
--------------	-------------------------------------	---	-----

● スマートウェルネス・オープンセミナー 〈講座、セミナー、育成〉

健康医療分野の産業振興に資する新しいビジネスモデルやサービスの創出を目指す関連企業の研究者や開発者並びにアカデミアの研究者を対象に、本分野の最新動向や課題等の情報を提供することを目的として、大阪大学医学系研究科の協力を得て2013年度から開催している。

セミナーに加えて交流会も開催し、参加者にショートプレゼンテーションの機会を提供し、事業領域を超えた異業種間の交流を促進した。

日程	タイトル	講師	参加者
第17回 7/24	「スーパーテクノロジーの時代」 ～人工知能がもたらす大変化～ 「ブロックチェーンと世界の動向」	データセクション(株) 顧問 橋本大也 (株)ユニクラウド 代表取締役社長 CEO 細江貴志	29名
第18回 8/7	「ラピッドエスノグラフィーを活用した、 “看護・介護”分野におけるデザイン思考アプローチ」 「ヘルスケア・リビングラボ『くらしラボと！』の活動報告と“デザイン思考”の導入」	京都工芸繊維大学 デザイン・建築学系 教授 榎勝彦 よどきり医療と介護のまちづくり(株) 超高齢社会健康・医療・くらし研究所 所長 卯津羅泰生	9名
第19回 10/4	「変なホテルのプロデューサーが語るイノベーターな日本の未来!？」 「梅田のまちでフィールド実証をやっちゃおう！」	(株)hapi-robot 代表取締役社長 富田直美 (株)新産業文化創出研究所 フェロー 卯津羅泰生	30名
第20回 1/31	「健康医療分野におけるエリアマネジメントの展開」 「ヘルスケア・フューチャーセッション～ヘルスケアビジネスモデルの出口戦略としてのエリアマネジメントを考える～」	(株)新産業文化創出研究所 代表取締役 廣常啓一 健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス 事業化グループ 連携促進コーディネーター 卯津羅泰生	41名

第 21 回 2/28	「健康医療分野におけるブロックチェーンの活用」  「ヘルスケア・フューチャーセッション～健康医療分野におけるブロックチェーン活用を考える～」	(同)SARR 代表執行社員 松田一敬  健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス 事業化グループ 連携促進コーディネーター 卯津羅泰生	37 名
第 22 回 3/2	「こんなに違う、日本と世界の医療制度」  「ブータンから学ぶ幸せを感じる生き方」	多摩大学医療・介護ソリューション研究所 フェロー 石井富美  (株)シーエスジェイ 研究開発部 部長 平山修一	19 名
第 23 回 3/27	「健康医療分野におけるロボティクスの展開」  「ヘルスケア・フューチャーセッション～健康医療分野におけるロボティクス活用の未来を考える～」	湘南ロボケアセンター(株) 代表取締役社長 久野孝稔  健康“生き活き”羅針盤リサーチコンプレックス 事業化グループ 連携促進コーディネーター 卯津羅泰生	25 名

- スーパーコンピューティングコンテスト 〈表彰、コンクール〉

大阪大学サイバーメディアセンターと東京工業大学学術国際情報センターが、大学による科学技術分野の若手人材育成に寄与することを目的に、毎年度行っている、高校生を対象にした高いレベルのプログラミング技術を競うコンテストであり、共同主催者として支援している。

当法人が関わってから 11 回目となる今年度は、本選を 8 月 21 日～8 月 25 日に開催し、全国から予選を勝ち抜いた 20 チームの約 60 名が大阪大学、東京工業大学に集結して、大阪大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。

優勝そして学会奨励賞(電気情報通信学会通信・システムサイエンススーパーコンピューティング奨励賞、情報処理学会若手奨励賞)は、北九州工業高等専門学校 solars、準優勝は、同点のため筑波大学附属駒場高等学校 KMiBa と静岡県立浜松工業高等学校 WayKey であった。

- バイオメディカル研究会 〈講座、セミナー、育成〉

創薬・臨床応用を見据えた最先端研究をテーマに、企業やアカデミアの研究者に最新情報の提供及び知的交流の場を提供することを目的として、2006 年度より年に 2 回の頻度でシンポジウムを開催している。

主催者は日本インフォマティクス学会関西地域部会、後援は、NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議、NPO 法人バイオグリッドセンター関西等の関西のバイオ産業振興団体であり、当法人は共催者として企画、広報、運営等を支援している。

今年度は、3 月開催予定を延期して来年度 4 月としたため、計 1 回の開催となった。

日程	タイトル	講師	参加者
第 23 回 9/21	<p>【1細胞から多器官ネットワークへ～生命システムの階層縦断的理解への最新アプローチ～】</p> <p>1.次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新天地:90年来のがんの謎を解く</p> <p>2.BodyMap の汎用化:ヘテロで大量な情報をAIに任せず使う為の技術</p> <p>3.尿中エクソームによる診断</p> <p>4.“From Systems Biology to Medicine: Inter-Organ Communication in Zebrafish, Mouse and Human”</p> <p>5.人工細胞デバイスを用いた計測とものづくり</p> <p>6.パネルディスカッション</p>	<p>1.九州大学 生体防御医学研究所 細胞機能制御学部門分子医科学分野 教授 中山敬一</p> <p>2.国立遺伝学研究所 遺伝子発現解析研究室 教授 大久保公策</p> <p>3.大阪大学大学院医学系研究科 泌尿器科 講師 藤田和利</p> <p>4.ATR 佐藤匠徳特別研究所 特別研究所長 佐藤匠徳</p> <p>5.東京大学大学院工学系研究科 教授 野地博行</p> <p>6.パネルディスカッション (モデレータ) 日本バイオインフォマティクス学会 関西地域部会長 中川博之 (パネリスト) 中山敬一、大久保公策、佐藤匠徳、 野地博行、藤田和利</p>	79名

- 大阪大学 健康・医療クロスイノベーションフォーラム <講座、セミナー、育成>

関西の国際的展開を見据え、健康・医療分野における研究開発や事業化を強力に推進していくことを目的に、大阪大学大学院 医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブが、様々な企業・組織の垣根を越え、協働・共創するクロスイノベーションの創発を目指して開催している。当法人は共催者として広報及び運営を支援している。

今年度は「認知症・在宅医療」と「smart wellness society」をテーマとして、2回開催し、本分野の課題や先進事例報告を中心に、幅広く議論を行った。

日程	タイトル	講師	参加者
9/13	<p>&lt;&lt;第1部&gt;&gt; 日本の超高齢化社会における 認知症の現状について</p> <p>&lt;&lt;特別講演&gt;&gt;</p>	<p>(座長)大阪大学大学院医学系 研究科 神経内科学 教授 望月秀樹</p> <p>(パネリスト) 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学 教授 池田学 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学 招へい教授 森悦朗</p> <p>大阪大学大学院工学研究科長 田中敏宏</p> <p>(座長)</p>	189名

	<p>&lt;&lt;第2部&gt;&gt; 認知症と生活環境について</p> <p>&lt;&lt;情報交換会&gt;&gt;</p>	<p>大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ代表、心臓血管外科学教授 澤芳樹</p> <p>大阪大学大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 招へい教授 柴田高</p> <p>(パネリスト) 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学 招へい教授 森悦朗 ライク株式会社 代表取締役社長 岡本 泰彦 大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻 統合保健看護科学分野 総合ヘルスプロモーション科学講座 教授 神出計 大阪大学 国際医工情報センター 慢性心不全治療学共同研究部門 特任教授(常勤) 麻野井英次 大阪大学 国際医工情報センター 特任教授(常勤) 三宅淳</p> <p>(司会)大阪大学大学院医学系研究科 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 特任講師 井上隆弘</p>	
3/12	<p>&lt;&lt;第1部&gt;&gt; 「“one world, all earth”における innovation ecosystem の先進事例」</p> <p>開会挨拶</p> <p>来賓挨拶</p> <p>「J&amp;Jにおけるイノベーションエコシステム構築の取り組みについて」</p> <p>「北米における医療機器開発への取り組み」</p> <p>「“Think Global, Act Local! “オール大阪から、オールジャパン、そして、オール地球へ」</p>	<p>大阪大学 大学院医学系研究科・医学部附属病院 産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ ディレクター/大学院医学系研究科 心臓血管外科学 教授 澤芳樹</p> <p>大阪府副知事 新井純</p> <p>(座長)澤芳樹</p> <p>Johnson&amp;Johnson Innovation ディレクター ニューベンチャーズ ジャパン 楠淳</p> <p>三菱商事株式会社 執行役員 生活流通本部長 山崎和</p> <p>Program Director(U.S.)Japan Biodesign, Stanford Biodesign Medical Director, Experimental Interventional Laboratory, Stanford University/MedVenture Partners(株) 取締役 チーフメディカルオフィサー 池野文昭</p>	144名

	<p>&lt;&lt;第2部&gt;&gt; 「Innovation ecosystem への挑戦」</p> <p>「経済産業省の目指すヘルスケアイノベーション」</p> <p>「日本生命のヘルスケア事業の取組」</p> <p>「Innovation ecosystem に求められるもの」</p> <p>&lt;&lt;第3部&gt;&gt; 「パネルディスカッション」</p> <p>～”one world, all earth”の視点からみた「smart wellness society」への挑戦～</p> <p>(開会挨拶) (情報交換会)</p>	<p>(座長)大阪大学 大学院医学系研究科 特任准教授 浅野武夫</p> <p>経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課 課長補佐 高熊万之</p> <p>日本生命保険(相) 営業企画部 ヘルスケア事業開発部長 神谷佳典</p> <p>(株)日本医療機器開発機構 代表取締役 内田毅彦</p> <p>(座長)澤芳樹、浅野武夫</p> <p>※座長キーノート 「One world All earth の視点からみた Smart wellness society～日本の医療現場からみた問題定義～」 ※問題提起 大阪大学大学院医学系研究科 特任教授 徳増有治</p> <p>※パネリスト 池野 文昭／内田 毅彦／楠 淳／高熊 万之／徳増有治／山崎 和</p> <p>中之島センター9F 交流サロン</p>	
--	---	---	--

## (2) 調査研究事業 <調査、資料収集>

- グローバルヘルスイニシアティブ(GHI)構想実現に関する調査

広義のヘルスケア、健康医療福祉領域に関わる都市計画やまちづくり、産業創出や技術移転、異分野の連携や国際連携、日本への輸出や進出、及び自国への投資促進や企業誘致等を目指す国内外のヘルスケア関連組織の日本における連携支援、各国間、各クラスター間の国際連携支援を実現するための活動をGHI構想と名付け、今年度よりその必要性や有用性について調査を開始した。

調査では、日本国内において、各国、各地のヘルスケア関連組織を支援、また推進する政府機関や経済団体、業界団体等の関連機関との情報交換の場を持ち、活動のニーズや課題、協力体制等を話し合うことで、将来的には各機関の活動の効果的な支援策の構築やマッチングがいかに産業振興につながるのかを検討課題に挙げた。当法人は大阪商工会議所とともに事務局を担い、関係機関連絡会議を3回開催し、米国商工会議所や欧州ビジネス協会の協力を得て、海外の状況について国内関係機関と情報交換や情報共有を行った。また、関係機関(オーストラリア総領事館、英国領事館)のマッチングイベントへの協力を通じて、企業の海外連携の状況把握を行った。

- 大阪における起業環境・産業立地に関する基礎的研究 〈調査、資料収集〉  
 起業環境を整え、地域産業を活性化する継続的な取り組みについて、4カ国5都市の先進事例を調査研究した。

4月には米国を訪問し、ニューヨーク最大のテック・スタートアップ展示会「TechDay」に参加し、最新のスタートアップ動向を探ったほか、コワーキングオフィスのNYDesignを訪問し、ワークショップと交流会に参加した。ピッツバーグでは、ピッツバーグ市のイノベーション担当者、地域のアクセラレーターであるInnovationWorksに、起業家を軸とした地域振興の進め方についてヒアリングするとともに、昨年度から当法人が日本予選を支援しているHardware Cupの今年度の本戦を観戦し、ものづくり起業家との交流を深めた。

7月にはフランス・パリ及びイギリス・ロンドンを訪問し、現地のインキュベーションオフィス訪問等を通じて、欧州におけるイノベーション創出の経緯と仕組みについて調査を行った。

11月には中国・深センを訪問し、精華大学深セン研究所が推進するアクセラレーターであるLeagueX、深セン市(科学技創新委員会)と面談し、行政や大学がイノベーション創出に果たす役割について意見交換した。

- 医療機器分野についての調査・研究 〈調査、資料収集〉

医療機器分野でのビジネス展開について、昨年度より調査を行っている。当法人にとり新たな調査対象領域のため、本分野におけるマッチングビジネスの支援において先行している大阪商工会議所が主催するセミナー及び商談会に共催することにより、業界動向や課題等様々な情報を得ながら、まずは人的ネットワークの構築に努めた。また、商談会をも開催し、医療機器メーカーのみならず本分野におけるサービス企業とのビジネスマッチングの機会を、本分野への新規参入を希望する中小企業に提供した。

	タイトル	講師他	参加
9/12	<b>【医療機器ビジネス参入促進セミナー】</b> 1.医療機器開発・製品化支援の最新動向について 2.医療機器ビジネス概観 3.医療機器に使用される技術・素材について 4.医療機器に係る病院経営側の思考 5.VCから見た医療機器ビジネスの事業性評価について 6.異業種からの新規参入でクラスIII治療器にチャレンジ(事例発表) 7.『電気刺激装置 WILMO』の医療機器製品化への開発事例紹介(事例発表)	1.(国研)国立循環器病研究センター 客員研究員 妙中義之 2.(公財)医療機器センター 医療機器産業研究所 調査研究室 室長 主任研究員 鈴木孝司 3.OGYメディカルデバイスソリューションズ(株) 代表取締役 荻生久夫 4.ITSインターナショナル(株) 専務取締役 井福武志 5.MedVenture Partners(株) 代表取締役社長 大下創 6.(株)タカトリ 医療機器事業準備室 室長 福光秀之 7.(株)エスケーエレクトロニクス 事業開発室担当部長 兼 ヘルスケア事業開発グループ統括 三宅充紘	93名
10/24	<b>【医療機器ビジネスにおける流通のしくみセミナー】(第1日目)</b> ～これで納得！医療機器の流通～	大阪商工会議所 医療機器事業化コーディネーター 吉田敬太	15名

12/18	【医療機器ビジネスにおける流通のしくみセミナー】(第2日目) ～これで納得！医療機器の流通～	大阪商工会議所 医療機器事業化コーディネーター 吉田敬太	25名
1/23	【医療機器ビジネスの実践ノウハウを学ぶ少人数制セミナー】(第1日目) ～これで納得！医薬品医療機器等法～	大阪商工会議所 医療機器事業化コーディネーター 佐藤純一	15名
2/5	【医療機器ビジネスの実践ノウハウを学ぶ少人数制セミナー】(第2日目) ～これで納得！医薬品医療機器等法～	大阪商工会議所 医療機器事業化コーディネーター 佐藤純一	15名

## 【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

### 1. これからのまちづくりのあり方についての調査研究（調査、資料収集）

- UIIまちづくり研究会

今後の都心まちづくりの在り方を検討するため、テーマやエリアを絞り込んだ研究を行い、具体的なアクションにつなげていくことを模索する「UIIまちづくり研究会」を、今年度より開始した。具体的には、大学との共同研究2件、当法人主体による研究1件を行い、テーマ及び内容は以下の通りである。

#### エリア研究「うめきた周辺地域におけるクリエイティブ人材誘引のための職住環境のデザイン」

うめきた地区の周辺地域は、住工商混在地域であり、産業の空洞化に伴い都心居住が進む一方、コミュニティの醸成や、まちに対して新たな価値を創造するクリエイティブ人材誘引のためのブランド構築等の課題を抱える。うめきた地区とその周辺の地区において良好な相互依存関係を育むために、遊休不動産の活用による都市再生の好循環を生み出せる仕組みや、新しいエリアマネジメント等の方策を考案して職住環境整備につなげることを目指して調査研究を行う。今年度は、現状分析とヒアリング調査を行った。

調査体制：大阪大学との共同研究

大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻都市再生マネジメント領域教授 加賀有津子  
同 講師 武田裕之

#### テーマ研究「大阪の個性化とまちづくり」

大阪が誇る地域文化資源である食をシンボライズする拠点を新しい視点に基づいて大阪都心部に形成することにより、地域ブランド力を向上し、もってまちづくりの推進と関連産業の振興を図る方策について検討する。今年度は大阪の地域ブランド力の現状と課題の整理等を行った。

調査体制：大阪市立大学研究者との共同研究

大阪市立大学経営学研究科 准教授 小林哲

#### テーマ研究「コミュニティ活動を通じた地域文化資源発見」実証研究

従来の発想にとらわれない新しい視点での地域文化資源を定義・抽出・編集することにより、大阪の「キタ」エリアの魅力を語るストーリーを導き出すとともに、まちを使いこなす人材を育成することを目的に、「キタ再発見の会」を5回開催した。

さらに、この地域文化資源を新しい発想で活用することにより、自発的かつ継続的なコミュニティイベントを誘発・支援することにより、「キタ」エリアの魅力を発信する新しいムーブメントにつなげる。

日程	タイトル	講師	参加者
10/26	キックオフ特別講演会 梅田ターミナルエリア開発の歴史	当法人理事長 木戸洋二	60名
11/21	茶屋町の再発見	北梅田地区まちづくり協議会 代表幹事 門坂章	32名
12/21	線から面へ-天六・天神橋筋商店街の歴史と商い-	北区商店会連合会 特別相談役 吉村孝司	37名
1/30	僕が中崎町でカフェを始めた理由	コモンカフェプロデューサー 山納洋（大阪ガス）	47名
3/20	主婦の私が再就職した先は、“自分の住むまち”だった	（一社）うめらく 代表 山田摩利子	40名

- 郊外まちづくりについての調査・研究

大都市近郊エリアの市町村に存在する郊外住宅地において、今後人口減少・高齢化することで生じる問題への対応方策を、2013年度より調査研究している。

具体的・実践的に、郊外住宅地における課題抽出と機能集約等コンパクトシティ形成を促進していく方策を検討するため、(公社)都市住宅学会に2014年度より委託研究を行っている。今年度は、昨年度の当法人と京阪グループ(ホールディングス、電鉄、不動産)によるジョイントに阪急電鉄(株)が加わり、引き続き阪急京都線沿線の茨木市周辺、京阪本線沿線の寝屋川市・枚方市周辺を対象地区としたケーススタディを継続実施した。

対象地域	研究担当者
(1) 今後拠点駅前において再々開発が行われる地域 ・阪急電鉄、JR西日本の茨木市、高槻市	関西学院大学 総合政策学部 教授 角野幸博 関西大学 環境都市工学部 建築学科 教授 岡絵理子
(2) 今後広範囲な高架化事業が行われる地域 ・京阪電気鉄道 寝屋川市、枚方市	武庫川女子大学 生活環境学部 講師 水野優子 大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 助教 伊丹康二

- 関西ツーリズムサポーターズ(Kansai Tourism Supporters KTS)

関西に留学する外国人学生によるボランティアチームを運営し、インバウンド観光に関する意見集約・提案や情報発信を行った。今年度は16名で7テーマについて活動した。

- ・出身国: 中国7名、ロシア2名、ベトナム2名、インドネシア2名、ネパール1名、ドイツ1名、台湾1名
- ・性別: 男性8名、女性8名
- ・留学先別: 大阪大学11名、関西大学3名、神戸大学1名、神戸医療福祉大学1名

日程	活動内容(テーマ)	テーマ提供者	参加留学生
6/30	大阪 WonderLoop(大阪観光周遊バス・船)の体験 :バスや船から降りて行ってみたいところ、 バスや船の改善点・感想	(一社)One Osaka ループバス推進機構	4名
7/22 -23	梅田ゆかた祭での多言語案内等業務の対応	梅田ゆかた祭 2017 実行委員会	8名
10/27	関西産業観光博覧会の見学 :展示ブースを見て行ってみたいところ 展示の仕方の改善点・感想	経済産業省 近畿経済産業局	4名
11/3	六甲山で「面白いこと、楽しいこと」を発見・発信	六甲山観光(株)	12名
11/29	梅田で利用できる「クーポン」への意見集約	阪神電鉄(株)開発営業室 阪急電鉄(株)都市マネジメント事業部	3名

12/14	第2回はなやか KANSAI 魅力アップアワード 候補2 件への意見集約	経済産業省 近畿経済産業局	7名
3/27	大阪観光局主催 関西中国財団講演会への参加	(公財)大阪観光局	2名

## 2. まちづくりに関する情報発信(講座、セミナー、育成)

- UII まちづくりフォーラム

当法人主催のまちづくり系のセミナーの呼称を、今年度から「UIIまちづくりフォーラム」に統一し、まちづくりに関する調査・研究の成果発表や様々な話題の提供を目的として開催した。

日時	タイトル	講師	参加
5/31	御堂筋オフィス街のソフト面での活性化策の検討調査 報告会	京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科 基盤科学系 教授 川北眞史	43名
8/4	大阪市北区・中之島地域におけるオープンスペースの ネットワーク化によるまち魅力向上策検討調査報告会	大阪大学大学院 工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻 教授 加賀有津子 講師 武田裕之	44名
10/30	これからの都市公園の経営と利活用	吹田市 土木部長 松本利久 関西大学大学院 理工学研究科修士課程1年 長峯佳代 中村穂希 (株)公園マネジメント研究所 代表取締役 小野隆 アーバンピクニック (神戸三宮 東遊園地にぎわい創出事業) 事務局長 村上豪英 関西大学環境都市工学部 教授 岡絵理子	118名
12/15	これからの都市再生戦略を考える	国土交通省都市局 街路交通施設課長 渡邊浩司 大阪市 都市計画局 理事 高橋徹 都市プランナー 高梨日出夫 関西学院大学 総合政策学部 教授 角野幸博 立命館大学 総合科学技術研究機構 上席研究員 村橋正武	122名
3/28	コンパクトシティ形成の新しい挑戦	国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市整備課長 太田裕之 大阪府高石市 政策推進部 総合政策課 参事 大坂友和	59名

- 研究交流セミナー「これからの郊外、住まいと鉄道」等  
 (公社)都市住宅学会への委託研究の成果発表を、同学会と共同主催により行った他、他の団体が主催するセミナーに共催した。

日程	タイトル	主催者等	参加者
6/16	駅から始まるコンパクトシティ形成促進方策に関する研究(3)報告会	主催: 当法人、 (公社)都市住宅学会関西支部	33名
12/1	「植育」イベント みどりのサンタの「植・食、健康」フェスタ 2017 オープニングシンポジウム	主催:(一社)テラプロジェクト 共催: 当法人	120名
2/1	都市づくりについての技術研究発表会と講演会	主催: アーバンインフラテクノロジー推進会議 共催: 当法人	144名

- まちづくりレターの配信

まちづくりにかかわる様々な話題や動向を調査して、レター形式で情報を発信。今年度は計 5 回配信した(配信先: 当法人の顧客データベース登録者の約 3,700 名)。

日程	タイトル	筆者、監修者
5/31	国家戦略特区等の活用などによるエリアマネジメントの新たな展開 ～博多まちづくり推進協議会の取り組み～	博多まちづくり推進協議会 事務局長 中嶋敬介
6/30	国家戦略特区等によるエリアマネジメントの新たな展開 ～We Love 天神協議会の取り組み～	We Love 天神協議会 事務局長 飯田浩之
7/18	福岡市における規制緩和の取り組み ～国家戦略特区と天神ビッグバン～	福岡市総務企画局調整部 国家戦略特区プロジェクト担当 企画係長 堀尾大輔
2/2	国家戦略特区の活用等によるエリアマネジメントの新たな展開 ～品川区大崎周辺エリアにおける取り組み～	一般社団法人大崎エリアマネジメント 綱嶋竜太
3/30	枚方宿地区まちづくり協議会の取り組み	枚方宿まちづくり協議会

- インバウンド観光セミナー「観光のひろば」

「観光をキーワードとした産業振興とまちづくり」をテーマに、最新の取り組みを紹介するセミナーを開催し、観光関係者への情報提供とコミュニティの形成を行った。

日時	タイトル	講師	参加者
5/15	日本を世界に営業する FREEPLUS が語るインバウンド!	(株)フリープラス 地方創生室本部 本部長 三澤茂毅	72名
7/24	統合型リゾート(IR)の導入と大阪・関西の未来!	大阪府・市 IR 推進局 佐藤仁司 (株)グローバルミックス 勝見博光	102名
9/22	由布院温泉の観光まちづくりから全国へ、そして静岡県小山町のまちづくりの挑戦!	静岡県小山町まちづくり専門官 溝口久	36名

11/30	自ら方程式をつくるまち ～大分県竹田市からの地域づくりへの挑戦～	大分県竹田市長 首藤勝次	43名
1/11	なぜ熊野古道に外国人観光客が殺到するのか？	小竹治安	40名

- 観光イノベーションアカデミー

インバウンド観光業界に若手の人材を呼び込み、従来の旅行業の発想にとらわれない新たなビジネスの創出を支援するため、連続講座を開催した。

日程	タイトル	講師	参加者
12/4	観光マーケティング概論	JTIC SWISS 代表 山田桂一郎	29名
1/18	海外マーケットの現状	吉日媒体行销有限公司 代表取締役 吉田皓一	23名
2/8	シェアリングエコノミーが開く観光の未来	株式会社 Huber. 代表取締役 紀陸武史	15名
3/7	地方活性化の成功事例	株式会社阿智☆屋神観光局 代表取締役 白澤裕次	14名

## 【その他事業】 産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

### 1. NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

文部科学省ITプログラム「スーパーコンピュータネットワークの構築」(バイオグリッド・プロジェクト)として2002年より2006年の5年間実施したプロジェクトを母体に、その研究成果の産業利用を目的に、2004年に設立された。情報技術とバイオ、医療の融合分野における研究開発及び教育普及活動を行っている。

当法人は、2004年度設立時より事務局業務を受託し、今年度も運営を支援した。

- 事務局運営

第14回総会(5月27日)及びバイオグリッド研究会開催をはじめ、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトの運営を支援した。

- バイオグリッド HPCI プロジェクト(KBDD プロジェクト)

創薬にスーパーコンピュータを活用しようというプロジェクトで2012年度より開始。3月末現在、製薬企業22社、IT企業2社、京都大学、横浜市立大学、兵庫県立大学、大阪大学、(国研)産業技術総合研究所、(公財)先端医療振興財団、千葉大学医学部が参画しており、当法人は事務局として運営を支援している。

今年度は、蛋白質と候補物質の結合のしやすさ(Kon)の計算を目標に、MSMという手法が適用できるかの可能性を検証するため、比較的簡単に結合する蛋白質を取り上げ、計算の可能性を検証した結果、比較的簡単に結合する蛋白質については計算手法を確立することができた。

なお、このプロジェクトを推進するため、NPO 法人バイオグリッドセンター関西が付与されたスーパーコンピュータ「京」の無料産業利用枠を利用している。

### 2. 創薬関連プロジェクトの運営支援

- (一社)日本マイクロバイオームコンソーシアム(JMBC)の運営支援

2013年度から活動してきた未来創薬研究会は、昨年度にマイクロバイオーム(体内細菌叢)をテーマとした企業コンソーシアムの組成検討の活動に軸足を移した。主に製薬企業を中心とした17社が、マイクロバイオーム組成準備ワーキンググループを組成し検討を開始、今年度4月にはそれを母体としてJMBCを設立した。

JMBCは、マイクロバイオーム解析に関する推奨プロトコルの作成・関連指針の作成、健常人マイクロバイオーム解析データベースの構築、データベース解析手法の開発と共有化等を目指している。当法人は、本分野の最新情報の収集に努める一方、事務局業務を受託し、理事会や社員総会の運営をはじめ設立記者会見、入会募集説明会、シンポジウム、運営委員会、各部会等の活動を支援した。JMBC会員は、設立当初は19団体、3月末時点で34団体となった。

- 4/19 設立
- 5/19 入会募集説明会(東京) 35社
- 5/22 入会募集説明会(大阪) 14社
- 5/23 設立記者発表(メディア向け)9社
- 7/28 設立記念シンポジウム開催(一般公開)304名
- 11/14 WEBサイト稼働(www.jmbc.life)
- 12/13 産業技術総合研究所との交流会開催 70名
- 1/1 日経BP社「日経バイオテク」寄稿「JMBC誕生」
- 1/18 第1回企業間交流会 50名

- 2/16 第1回アカデミア交流会 50名
- 2/25 (株)化学工業日報社「化学工業」寄稿 「ヒトマイクロバイーム研究と産業への応用」
- 3/7 第2回企業間交流会 40名

日程	タイトル	主催者 / 共催者	参加者
7/28	JMBC 設立記念シンポジウム	JMBC / 当法人	290名
11/10	「JMBC 活動紹介」講演	情報計算化学生物学会 / 当法人	80名

### 3. エリアマネジメント活動の支援

- 梅田地区における案内所業務への支援  
 運営主体が様々である梅田の案内所を連携し共通課題に対応することで、サービスの向上を目指す活動を支援している。  
 今年度も、全体的な情報の把握と整理が必要なもの(バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関等)のマップと詳細情報リストを4回更新作成し、各案内所に配布した。
- 梅田地区エリアマネジメント実践連絡会の活動支援  
 海外企業の誘致や受入れ環境整備を目指し、国土交通省の補助金を活用し実施する事業の一部を受託し、活動を支援した。  
 2/26～28 梅田プレスツアーの実施  
 中国系動画メディア1社と、欧米系フリーランス記者2名を招請し、梅田のビジネス環境についての情報を発信した。  
 3/13～15 不動産見本市「MIPIM2017」への運営支援(フランス・カンヌ)  
 ジャパンパビリオン(=日本ブース)を出展するに際し、梅田地区を紹介するパンフレットの配布や紹介動画の放映を支援した。また、投資家との面談の支援ほか、大阪市とともに、梅田地区の開発プロジェクトやエリアマネジメントについて紹介スピーチも実施した。
- 大阪エリアマネジメント活性化会議の事務局支援  
 同会議は、大阪市と市内エリアマネジメント8団体で構成し、大阪市内におけるエリアマネジメント活動の活性化に向けたアクションプランとガイドラインの策定を目指して、昨年度に発足した。  
 当法人は大阪市とともに共同事務局を担い、会議の進行補助等、運営を支援した。  
 4/24、6/1 第4回・第5回中之島部会  
 4/27、6/23 第4回・第5回大阪駅部会  
 6/20 第3回御堂筋部会  
 7/10 第2回大阪エリアマネジメント活性化会議(本会)  
 2/5、14、15 第6回大阪駅部会、中之島部会、第4回御堂筋部会  
 3/22 第3回大阪エリアマネジメント活性化会議(本会)

#### 4. (公社)都市住宅学会関西支部の運営支援

2015 年度より、関西支部の事務局業務を受託し、運営を支援している。

今年度は、通常総会を 4 月 15 日に開催し研究委員会報告を行ったほか、常議員会を 8 回開催した。また、研究小論発表・討論会の実施、シンポジウム、見学会の開催等を行った。

#### 5. 起業家支援オフィスの運営「Global Venture Habitat 大阪」(GVH 大阪)

GVH 大阪は、スタートアップのエコシステムを大阪に創ることを目的に、2011 年 1 月に梅田に開設した起業家支援オフィスである。開設当時は、当法人のオフィスに入居する(株)サンブリッジグローバルベンチャーズが管理し運営を行ってきたが、2016 年度より当法人の事業と位置づけた。

今年度も、施設利用会員である起業家に対し、オフィス環境の提供に加えて定期的にメンタリングを行い、事業の成長への支援を行っている。

利用会員は、規模拡大等に伴う退去者を含めると延べで 150 名を超え、3 月末現在では 26 法人 29 名である。

## 【法人管理】 公益法人としての適正な運営

今年度は、理事会を5回(うち1回は書面開催)、評議員会を1回開催し、公益法人として適法に運営した。

以 上

# 附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。

以上